

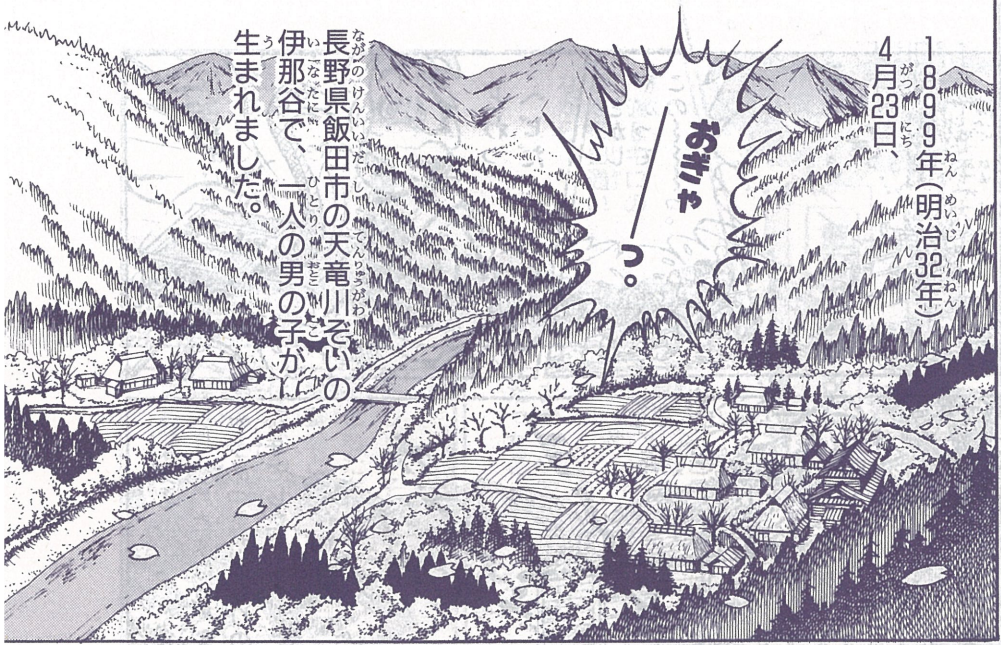
ちち ヤクルトの父

しろ た みのも の がたり
代田 稔物語



げん あん く ほ た せん た ろう
原 案・久保田千太郎
まんが・ながいのりあき

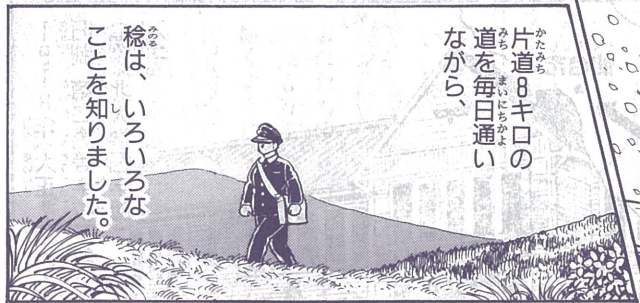
この本は、2004年(平成16年)の小学館「小学三年生」
 四月号に掲載された「ヤクルトの父 代田 稔物語」です。ヤクルトが、
 世界の人々の健康を願って、品質の高い製品つくりを心がけて
 いることを、理解していただければ、うれしく思います。



1899年(明治32年)
 4月23日

長野県飯田市の天竜川そのの
 伊那谷で、一人の男の子が
 生まれました。





稔は、いろいろなことを知りました。

片道8キロの道を毎日通いながら、

1913年(大正2年)旧制 飯田中学(現飯田高校)入学。
飯田中等学校



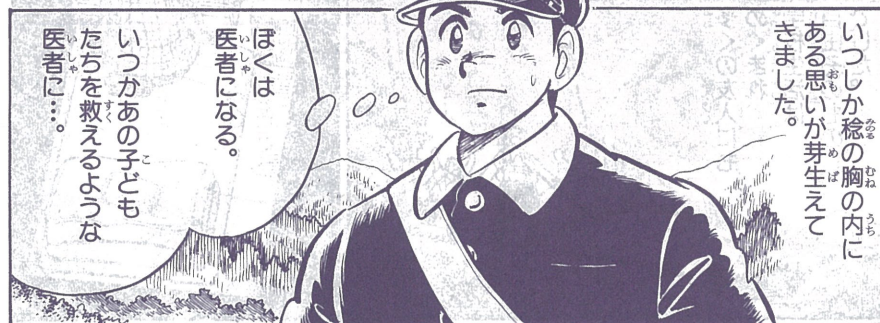
そして、そんな家の子どもたちは、栄養をとって体力がつけば治るような病気で...



ふるさとの伊那合は高い山々にかまれたけわしい土地なので作物がとれず、まずしい家がほとんどだったこと。



命を落とすことが多かったのです。



いつしか稔の胸の内に
ある思いが芽生えて
きました。

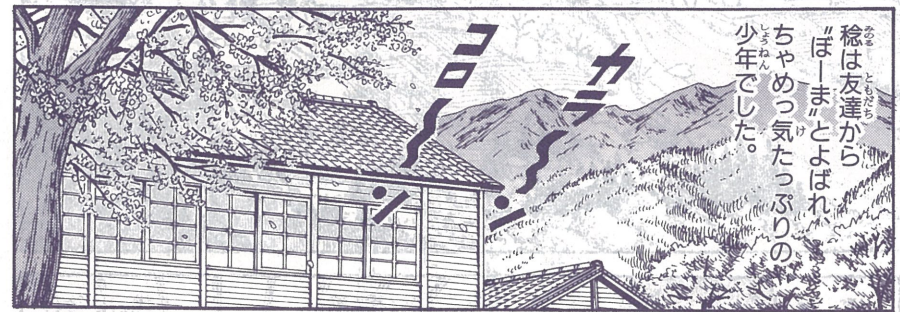
ぼくは
医者になる。

いつかあの子ども
たちを救えるような
医者になる。

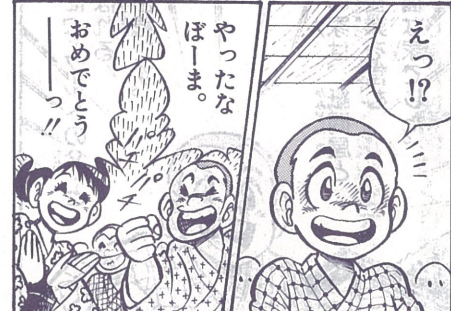


どわっ
へびだ!!

おどかし
やがって
この...



稔は友達から「ぼーま」とよばれちやめつ気たつぷりの少年でした。



やったな
ぼーま。

おめでとう
っ!!



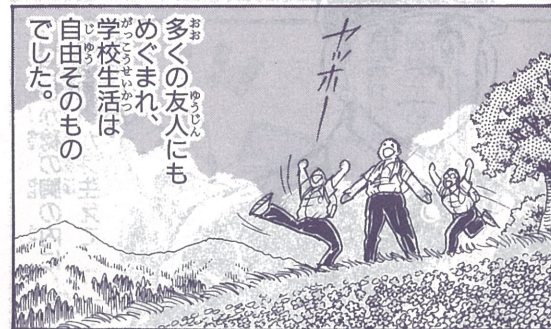
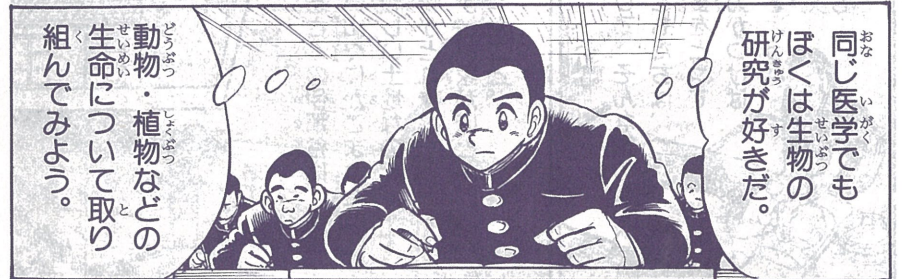
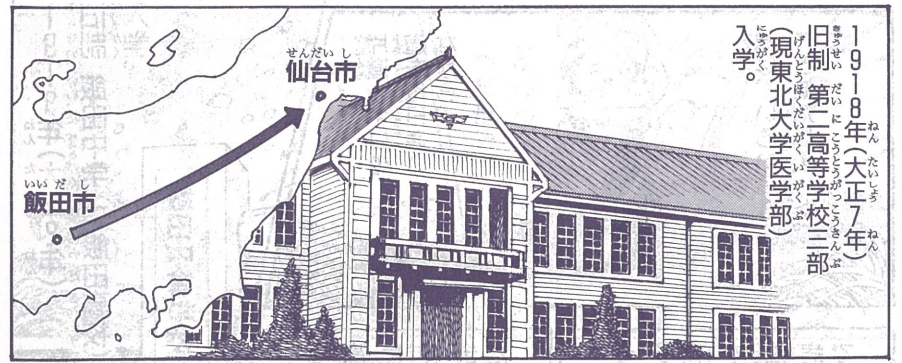
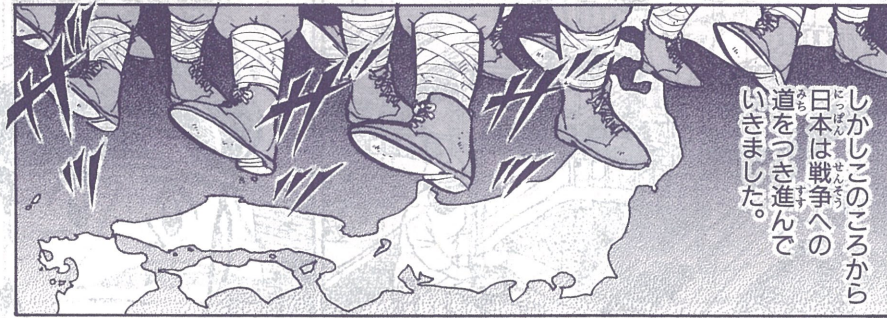
今日はみんなに、うれしい知らせがある。

代田くんの書いた作文「夕立ち」が長野県の作文コンクールで一位に入賞した。



これですっかり国語が大好きになりました。

算数がとくいで国語はにがてでした。



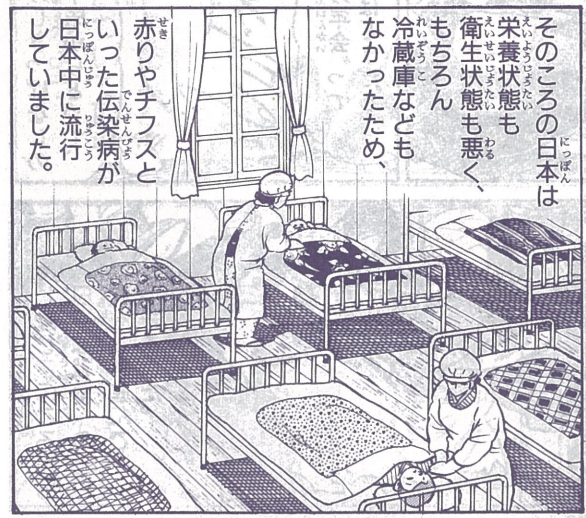
1921年(大正10年)
京都帝国大学
医学部入学。

ここで椋は、いよいよ本格的に消化管にすむ微生物の研究に取り組み始めました。



そのころの日本は栄養状態も衛生状態も悪くもろもろ冷蔵庫などもなかったため

赤りやチフスといった伝染病が日本中に流行していました。



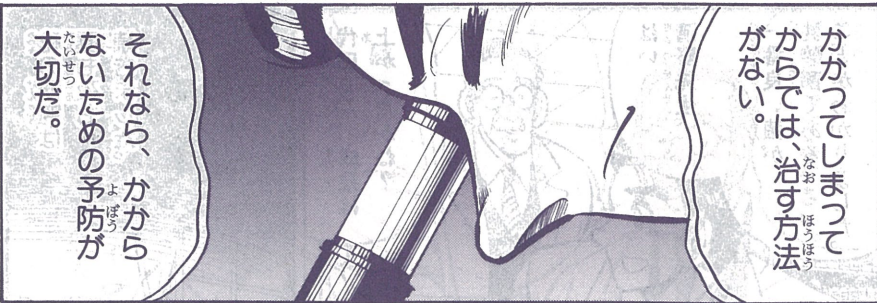
疫病は細菌からきている。



赤りもえきりも...

かかってしまつてからでは、治す方法がない。

それなら、かからないための予防が大切だ。



病氣にかからないための医学、

それが椋の考えた「予防医学」でした。



人の体には病氣のもとになる悪い病原菌がいる。



しかし、それを退治して人の健康を守ってくれる、

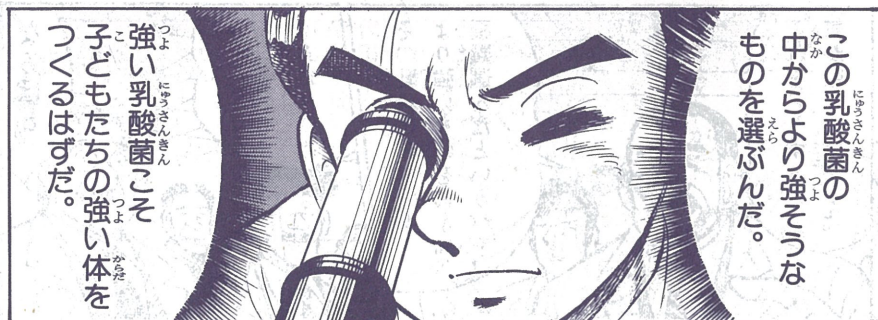
良い菌もすんでいる。

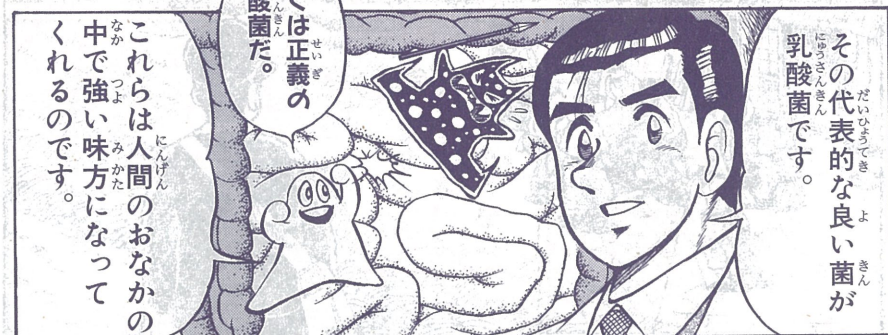
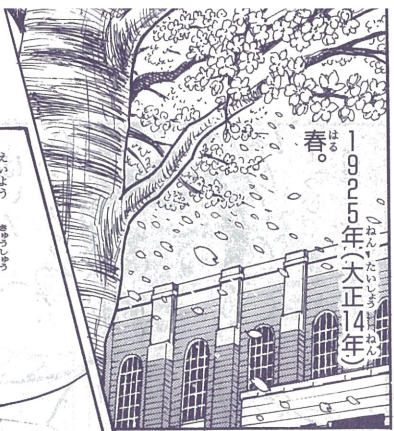


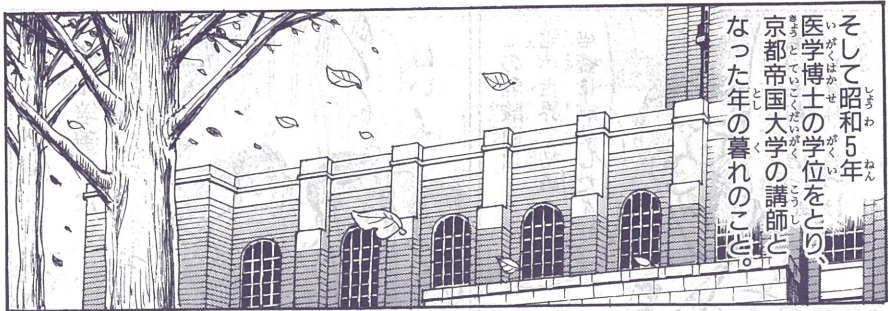
人の体を強くしてくれるその良い菌を見つけ出すことから始めよう。

乳酸菌、納豆菌、酪酸菌、カビ、酵母菌...片っぱしから調べてみるぞ。









そして昭和5年
医学博士の学位をとり
京都帝国大学の講師と
なった年の暮れのこと。



清野先生。

ついに乳酸菌の
培養に成功しました。

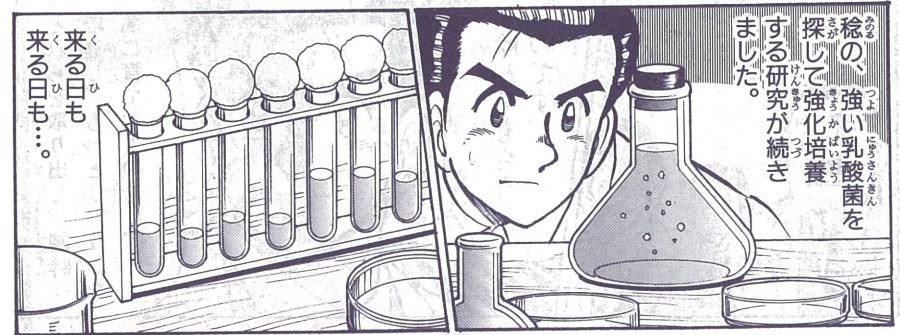
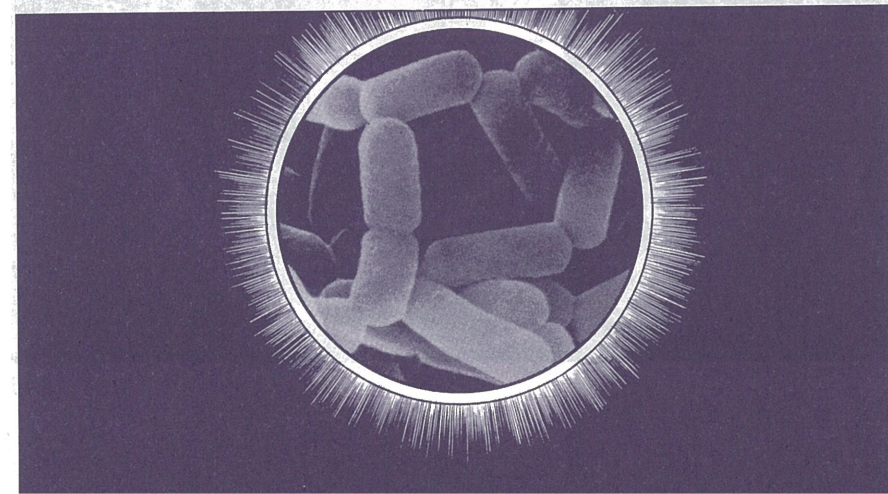


やった！

ついに
やったぞ！

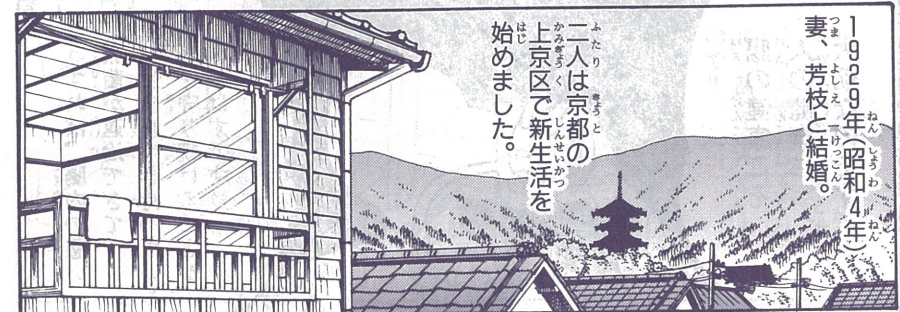


本当か！？



檢の、強い乳酸菌を
探して強化培養
する研究が続き
ました。

来る日も
来る日も
来る日も…



1929年(昭和4年)
妻、芳枝と結婚。

二人は京都の
上京区で新生活を
始めました。



このままで
ごよ。

ぼくは万年床のほう
が落ち着くんだ。



あなた、
研究中になる
のはいいんですが…

おふとんは
たたんだほうが…

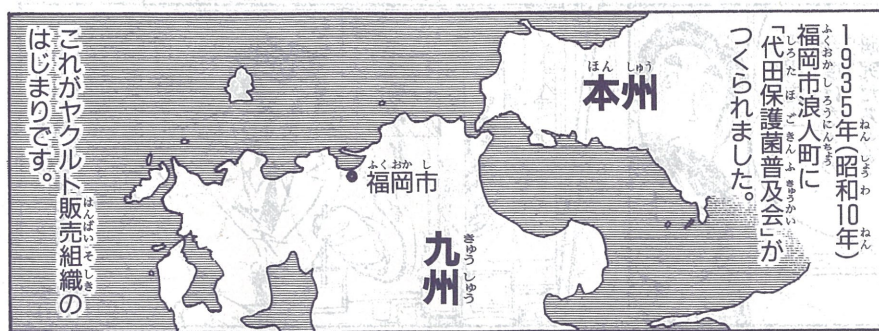
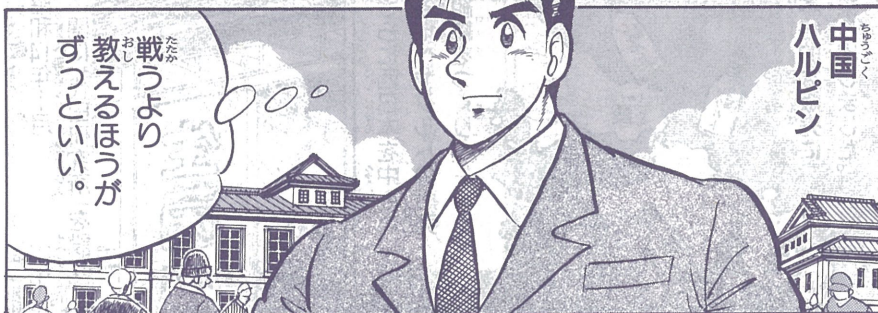


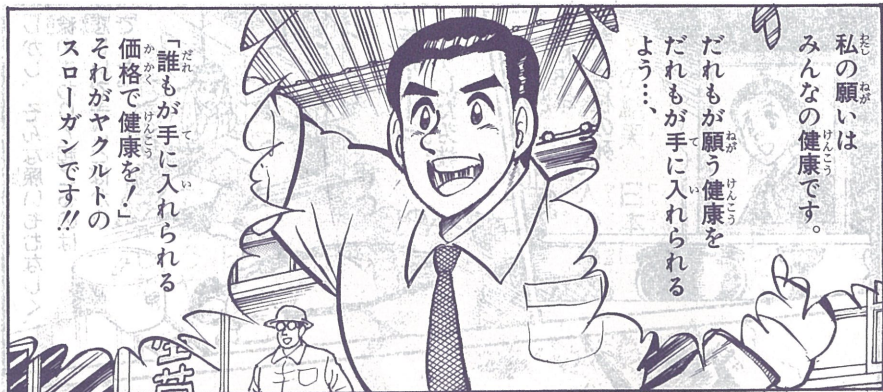
は…はい。

結婚した
後も…
万年床は
変わりませんでした。









私の願いは
みんなの健康です。
だれもが願う健康を
だれもが手に入れられる
よう……

「誰もが手に入れられる
価格で健康を！」
それがヤクルトの
スローガンです!!



将来のある
育ちざかりの
子どもたちが……

満足な食べ物
あたえられず
栄養不足に
なっていました。



稔が大学をやめてまで
ヤクルトの販売普及に
情熱をそそいだのには
わけがありました。



この食料不足と
栄養不足こそ、

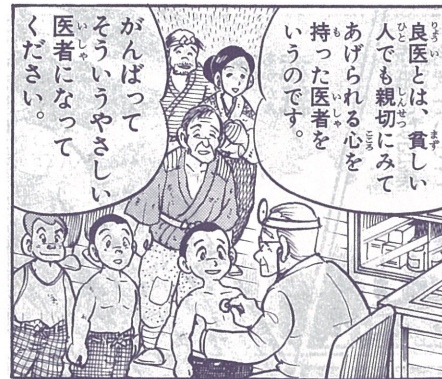
病原菌に負け
病気になるものだ。



それは、日ごとに軍国主義の
世の中になりつつあった日本は
食料よりも軍艦や戦車づくりに
お金が使われていたのです。

一人でも多くの子どもに
ヤクルトを飲んでほしい。
健康になってほしい。

それが私たちが
ヤクルトの願いだ。



良医とは、貪しい
人でも親切にみて
あげられる心を
持った医者さ
うです。

がんばって
そういうやさしい
医者になって
ください。

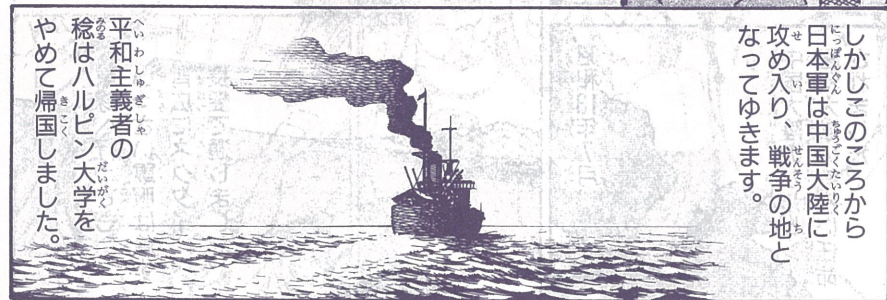
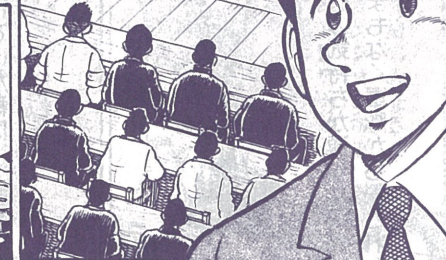


みなさん、
将来は名医に
なるより、良医に
なってください。



良医か……

だれにでもやさしい
親切な医者か……



しかしこのころから
日本軍は中国大陸に
攻め入り、戦争の地と
なっていました。

平和主義者の
稔はハルビン大学を
やめて帰国しました。



さらに西日本を中心に
各地へヤクルトの販売
組織をつくり、

本格的な販売に
乗り出しました。



昭和4年1月
下関に「代田研究所」を設立。



この大きな戦争は
4年間も続きました。
その結果、日本は
たくさんの人の命と
財産を失い…。

昭和20年8月15日、
日本の敗戦でようやく
終戦をむかえました。



やっと戦争が
終わった。

これからは
電気も使えるし
研究もできる。

またヤクルトを復活
してみせるぞ!!



はじめから
やり直して
乳酸菌
の培養だ。
シロタ株を
育てるぞ。

俺は再びヤクルトに賭けて
仲間と仕事を再開しました。

代田先生!
がんばりま
しょう!

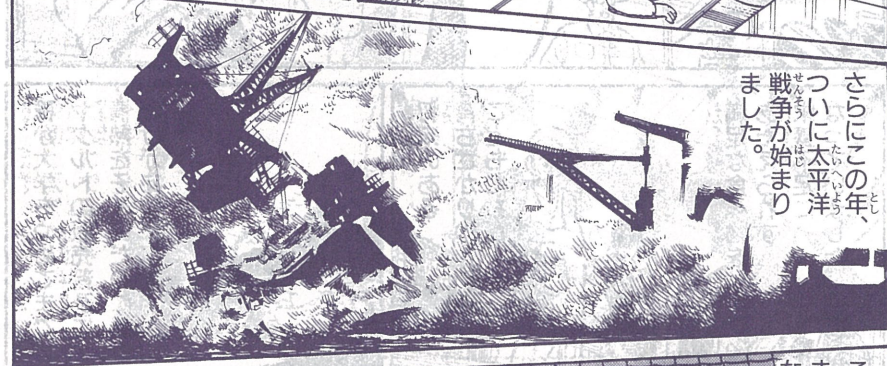
昔の仲間が
続々と集まって
来ますよ。



昭和16年
妻、芳枝の死。

芳枝—っ、
どうした芳枝。

しかし、そんな願いもむなしく、
俺のまわりで起るものは
悲しいできごとばかり
でした。

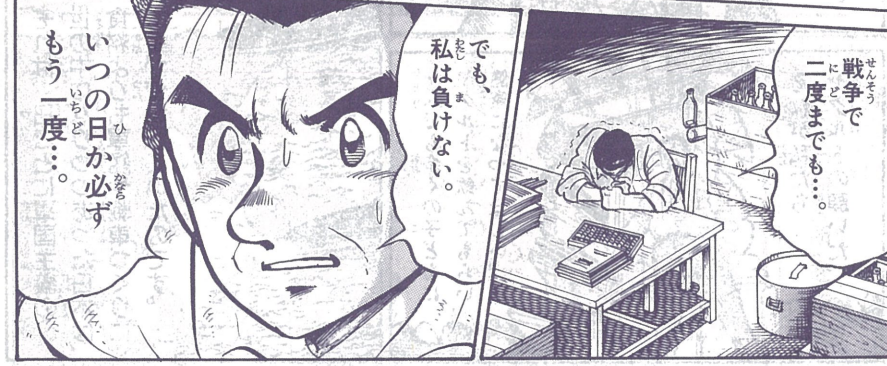


さらにこの年
ついに太平洋
戦争が始まり
ました。



この戦争で日本は
ますます食料不足に
なり

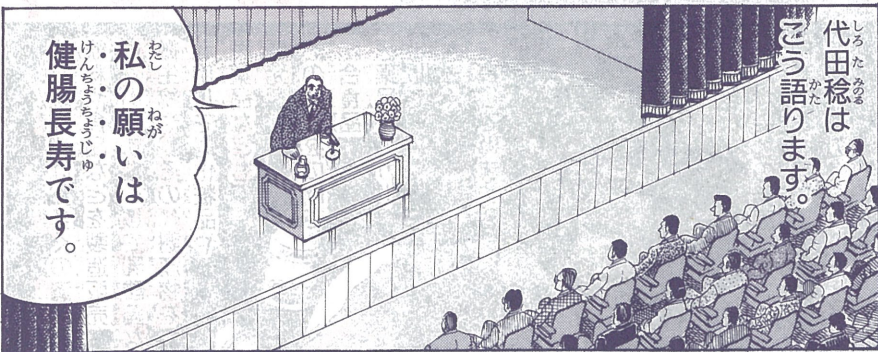
各地にあった
ヤクルトも原料が
手に入らず、製造
中止に追いこま
れました。



でも、
私は負けない。

いつの日か必ず
もう一度…。

戦争で
二度までも…。



私の願いは
健康長寿です。

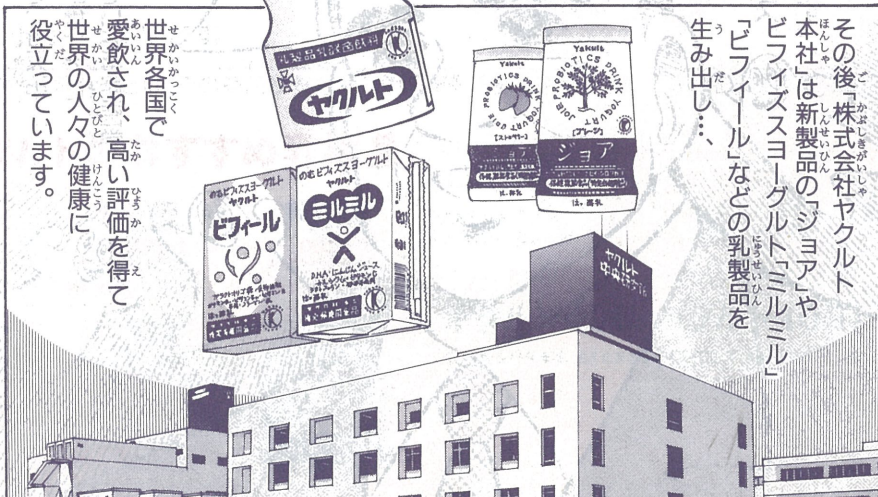
代田 隼は
こう語ります。



みなさんが一人ひとり
健康で長生きして
ほしいのです。

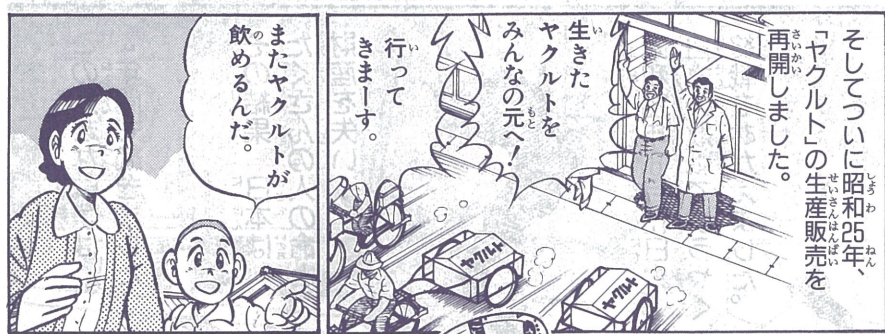
みなさんのおなかの健康を
守る乳酸菌を大いに
役立てていただき、

ヤクルトには生きた乳酸菌が
たっぷり含まれています。
毎日ヤクルトを飲んで健康で
幸せな一生をお過ごしください。



その後「株式会社ヤクルト
本社」は新製品の「ジョア」や
「ピフィスヨーグルト」「ミルミル」
「ピフィール」などの乳製品を
生み出し...

世界各国で
愛飲され、高い評価を得て
世界の人の健康に
役立っています。



またヤクルトが
飲めるんだ。

行って
きます。

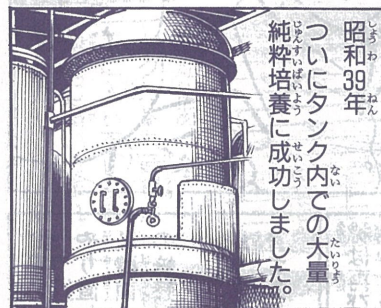
そしてついに昭和25年、
「ヤクルト」の生産販売を
再開しました。



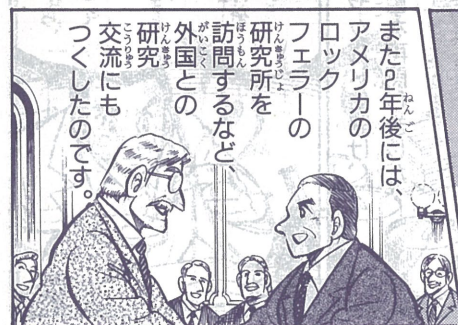
その後、クロレラの
研究にもうちこみ
これ大量
培養できない
だろうか。



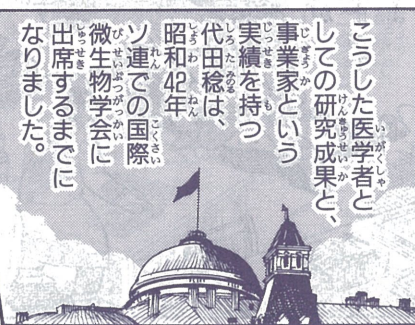
昭和30年、
隼は本社を東京に移し
「ヤクルト」の名を
全国に高めていきました。



昭和39年
ついにタンク内での大量
純粋培養に成功しました。

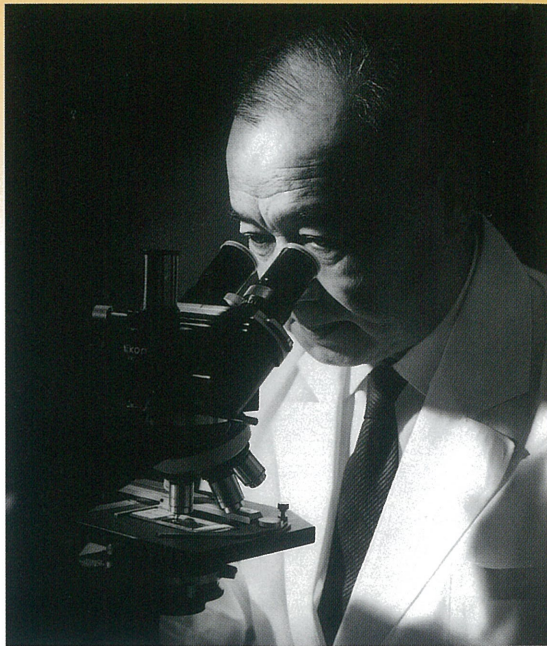


また2年後には、
アメリカの
ロック
フェラーの
研究所を
訪問するなど
外国との
研究
交流にも
つきました。



こうした医学者と
しての研究成果と、
事業家という
実績を持つ
代田 隼は、
昭和42年
ソ連での国際
微生物学会に
出席するまでに
なりました。

健康は みんなの願い、 ヤクルトの願い。



目に見えない小さな生物“微生物”の研究を続けて約80年。ヤクルトは、微生物のなかでも、私たちの健康を守ってくれる乳酸菌の研究を続けてきました。ヤクルトの乳製品は、乳酸菌の仲間の「L.カゼイ YIT 9029(乳酸菌 シロタ株)」や「ビフィズス菌 BY株(ビフィズス菌)」を含み、日本をはじめ世界の多くの国々で愛飲されています。

また、ヤクルトの乳製品はその多くが特定保健用食品として国(消費者庁)から認められています。

カラダに良い働きをする乳酸菌を商品に利用し、世界中の人々が健康に暮らせるようヤクルトは願っています。

※特定保健用食品とは、その商品が安全で、健康に良い働きをするということを国が認めたものです。

ヤクルトのおすすめ乳製品



ヤクルト400に比べ
甘さ・カロリーひかえめ

ヤクルト400・ヤクルト400 LT

乳酸菌 シロタ株は、生きたまま腸内に到達して、おなかの調子を整えます。

ヤクルトの父・おわり

また現在では、多くの清涼飲料や食品などを製造販売しています。そして乳酸菌などの微生物や、その代謝産物を利用して、化粧品や医薬品なども開発。そのばを広げて総合食品、医薬品メーカーとして大きく成長しています。

代田稔は、そんな会社の発展を見守りつつ昭和7年(1932年)8月10日、82歳でこの世を去りました。

「菌をもって菌を制する」

その言葉どおり、代田稔こそプロバイオティクス研究のパイオニアだったのです。

※人の健康に役立つ生きた微生物(乳酸菌など)のこと

今日、21世紀の医療や健康法として、世界中が注目している「プロバイオティクス」はすでに70年以上も前から代田稔が提唱していた予防医学そのものであると言えます。